

令和7年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	NPO 法人 だあれ
事 業 名 称	こども真ん中マップづくりと多世代交流・自己実現による町づくり事業
補 助 金 額	200,000円
現場確認日時	令和7年7月24日（木）
開 催 場 所	だあれ だれんち
出 席 委 員	高見委員、丹羽委員、山岡委員

事業の概要

二宮町の「こどもまんなか元年」に合わせて、「こども真ん中マップ」を制作。当法人の活動周知や、マップづくりに伴うつながりにより新たな活動・利用者拡充を目指す。

現場確認の内容

だあれ寺子屋

放課後、主に小学生が自由に集まり、宿題を済ませてから遊ぶ。学習支援の見守りあり。



委員コメント

- だあれ寺子屋を見学させていただきました。
子どもたちの様子を拝見していて、素晴らしい活動だと感じました。
せっかくの場ですから、「にのみやこどもまんなかマップ」でもっと大きく紹介されてもよかったのかなと思います。そしてマップの次回発行時には、他の小学校区でも「だあれ②」、「だあれ③」が見つけれられるようになっていくことを期待しています。
- 同法人が行う様々な活動のうち「寺子屋の日」を訪問・視察。
舞台はレトロな一軒家。そこで小学生の子ども達計8人が（常連らしいこともあり）、先生と座卓に向かい宿題（算数プリント）に取り組んだり、隠れ家のような押し入れスペースで駄菓子を食べながらゲームをしたり、それぞれの「居場所」としてうまく利用していると感じられた。
誰かのやりたいことをやるという緩やかなコンセプトで駄菓子やこども衣類販売、ヘッドスパなど、こどものみならず親も対象にした様々な活動を展開中。他方で、騒音（正確にはこども達の元気な声）対策やこども達の自転車置き場、置き方など近隣対応にも配慮しつつ。
やりたいことを提供する側、参加する側、それら活動間の相乗効果や親和性、さらには近隣の理解など、いろいろ時間をかけて試行錯誤をしながらやってみるしかないものと感じる。ちょうど完成した「にのみやこどもまんなかマップ」を受領したが、これを作成するプロセスで実施したアンケートの設問「二宮町にこんなあったらよいな」と思うものに対し、「居場所」という声が多かった由。うまく居場所を作り出していく先例になることを期待する。

委員コメント

- だれんちで開催されているだあれ寺子屋を視察しました。夏休みで隔週開催とのことでしたが、10人程度の子どもたちが三々五々集まり、宿題をやったり、終わった子は押し入れでゲーム等をして楽しそうに過ごしていました。

完成した子ども真ん中マップをいただきました。完成したばかりですが、評判はよいとのこと。制作にあたり複数のスポンサー（地域の商店や企業等）を集められており、資金調達ということだけでなく、こうした活動への関心喚起という点でも意義のあることと感じます。うまく配布活用いただけることを期待します。

だれんちに子どもたちが集うことについて、近隣住民からは自転車の置き方や子どもの声等についてご意見をいただくこともあるとのことですが、始まってまだ2年の活動ですから、コミュニケーションをとりながら相応しい形を探っていただけるものと思います。

子どもたちがこうして集まって楽しそうに過ごしている場が地域にあるということは大変意義のあることと考えます。



令和7年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	南口駅前商店会納涼祭実行委員会
事 業 名 称	南口駅前商店会 納涼祭
補 助 金 額	200,000円
現場確認日時	令和7年7月11日(金)
開 催 場 所	二宮町商工会 会議室
出 席 委 員	馬場委員

事業の概要

事業の発展、駅前の活性化と共に、全町民を対象とした地域コミュニティの醸成を図ることを目的とする。

将来的には近隣市町へも広報し、さらなる集客を目指したいと考える。



現場確認の内容

9月に開催する納涼祭について打合せ

委員コメント

- 納涼祭は9月20日の予定ですが、私は、企画の方向づけに興味があり、当日ではなく、敢えて事前の「打合せ会」に参加させていただきました。それぞれ業務多忙な中、10名前後の皆様が熱心に議論されている姿には、ただただ頭が下がります。
- 今回の企画は、南口駅前の活性化と共に、全町民を対象とした「地域コミュニティの醸成を図る」との狙いがあります。「ものからコト」と言われて久しいですが、社会の成熟化のニーズに応える時流を捉えたプランです。しかしそのためには、一部町民に残る？一商店街の活性化策としてのイメージを、払拭しなければならないのではないのでしょうか。
- したがって当イベントの企画推進では、下記の2点への配慮を期待したいです。
 - 「町民のふれあいの機会」として強力に訴求する。
キャッチフレーズ例⇒ふれあいの機会を「楽しもう!」「広げよう!」
 - 従来以上に町内全域へのPRを徹底する。
例⇒町内他商店街の店頭でポスター掲示を依頼
例⇒JR駅構内各所にポスター掲示依頼
例⇒地区長会等を通じて、自治会ニュースへの掲載依頼
- 公的支援は僅か3年間です。当該活動を長期継続させるため、その間に資金的基盤を、具体的にどのように組み立てるか等の検討(例:地元支援企業の確保等)も必要と思われます。

*補足&留意点

上記の「他商店街のPR協力」「資金基盤確立への企業支援」は、「地域の活性化」を狙っている限り、具現化は難しいでしょう。あくまで全町を対象とする「コミュニティの醸成」を目指しているからこそ、共感・共鳴・協力を得られると思われま

令和7年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	南口駅前商店会納涼祭実行委員会
事 業 名 称	南口駅前商店会 納涼祭
補 助 金 額	200,000円
現場確認日時	令和7年9月20日(土)
開 催 場 所	JR二宮駅 南口
出 席 委 員	手塚委員

事業の概要

事業の発展、駅前の活性と共に、全町民を対象とした地域コミュニティの醸成を図ることを目的とする。

将来的には近隣市町へも広報し、さらなる集客を目指したいと考える。



現場確認の内容

納涼祭

- ・野菜詰め放題 ・抽選会
- ・こども駄菓子詰め放題
- ・パトカー乗車体験
- ・消防団ユニフォーム着用体験

※祭囃子は雨天により中止



委員コメント

生憎の雨の中、少し予定を変更して納涼祭が始まりました。

商店会のイベントらしく、会員の皆様の多様な協力のもと、放送によるプログラム紹介が絶え間なく続き、徐々に町民の皆様が集まりはじめ、歩道一杯になる様子を反対側の歩道から見学させていただきました。

補助金の対象イベントということもあり、例年通りの近隣へのお知らせだけではなく、全町民へ情報を提供したとのことで、多くの町民に情報が届き、幅広い年代の町民が足を運んだのではないのでしょうか。開始して1時間足らずで、野菜の詰め放題は終了し、焼き鳥も完売したとのことでした。その後、抽選会が開催され、やはり商店会ならではの景品が勢ぞろいで、楽しい雰囲気でした。

駅前のロータリーでは、時間貸し駐車場を貸切り、真っ赤な消防車の近くで、子どもたちが消防団のユニフォームの着用体験や、パトカーの運転席等への乗車体験を楽しんでいる様子も見ることができました。雨模様も功を奏し、溢れるほど並ぶこともなく、皆さん満足そうに笑顔が溢れていました。

二宮町には各地域で多くのお祭りが開催されていると思います。どのお祭りも大切に受け継がれ、地域づくりには欠かせないものだと思います。この納涼祭の様に、多くの皆様に知って頂き、地区内のPRだけではなく多くの町民に向けて情報を発信する仕組みがあっても良いのではないかと感じました。

楽しい時間を過ごすことができましたことを報告いたします。

令和7年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団 体 名	にのみや子どもの権利フォーラム
事 業 名 称	こどもの権利に関する普及活動
補 助 金 額	200,000円
現場確認日時	令和7年8月6日（水）
開 催 場 所	二宮町町民センター 老人クラブ室
出 席 委 員	小島委員

事業の概要

こどもの権利条約について、こども・若者・大人たち町民が、主体的に学び、その意義を知り、町づくりに活かせるようにする。行政と共に、「二宮町こどもの権利条例」制定を目指す。

現場確認の内容

- 二宮で育つこどもの未来 第2弾
参加・対話型ワークショップ
- ・ショートコント「こどもバイアス」
- ・一社 Everybeing 共同代表 西崎萌氏
(こども家庭庁アドバイザー) による講話
- ・二宮町のことを知ろう
(町議会、町こども支援課)
- ・グループワーク



委員コメント

子どもの権利条約について学び、町づくりに活かせるよう行政と共に子どもの権利条例制定を目指す大きなテーマへの取り組みや普及活動にご尽力されていることに感謝いたします。

町民がその意義を理解すること、子どもが参加でき、活躍できる機会を増やしていくことは重要なことだと思います。

これからも普及活動が広がり継続されることに期待します。

令和7年度二宮町町民活動推進補助金交付団体活動現場確認報告

団体名	にのみや子どもの権利フォーラム
事業名称	こどもの権利に関する普及活動
補助金額	200,000円
現場確認日時	令和7年11月3日(月・祝)
開催場所	生涯学習センターラディアン
出席委員	大河原委員

事業の概要

こどもの権利条約について、こども・若者・大人たち町民が、主体的に学び、その意義を知り、町づくりに活かせるようにする。行政と共に、「二宮町こどもの権利条例」制定を目指す。

現場確認の内容

町制施行90周年記念事業

パネルディスカッション

「こどもの声をきく」

ファシリテーター：西崎 萌さん

パネラー：にのみや子どもの権利フォーラム/
にのみや子ども自然塾/助産院おさんぽ/こども版気候市民会議/こども家庭庁/町こども支援課



委員コメント

ラディアンホールでのパネルディスカッション「こどもの声をきく」を確認させていただきました。様々な団体の方や町の職員、小中学生も参加されていて、色々な意見を聞くことが出来てとても良い経験をさせていただきました。

内容についてはこどもの権利の考え方や権利という言葉の強さをいかにわかりやすく広めるか、子供から見た大人の印象など興味深い内容で大変勉強になりました。

懸念点としては来場者が少なかった様なので、もう少し幅広く周知させた方がいいと思います。内容が良かったので少々勿体ない感じを受けました。

また、資金面についても幅広く活動されている為、大変かと思われます。補助金や企業協賛なども拡大した継続的に活動出来るようにして頂ければと思います。